

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 37 回）議事概要（案）

日時：令和 2 年 3 月 27 日（金）10:00～11:20

場所：ウェブ会議（skype for business）、第 4 特別会議室（一部）

出席者：

都竹主査（名城大学）、伊丹主査代理（東京理科大学）
 岩田専門委員（(株)テレビ東京）、浦野専門委員（日本テレビ放送網（株））、
 大谷専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）、川口専門委員（(株)テレビ朝日）、
 児玉専門委員（日本放送協会）、下地専門委員（パナソニック（株））、
 中村専門委員（日本放送協会）、西田専門委員（日本放送協会）、
 日野専門委員（(株)TBS テレビ）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
 三木専門委員（三菱電機株式会社）、吉野専門委員（NTT 未来ねっと研究所）

説明者：

大出氏（日本放送協会）、甲斐氏（日本テレビ放送網(株)）、熊丸氏（日本放送協会）、
 近藤氏（TBS テレビ）、薮氏（日本放送協会）西本氏（日本放送協会）、
 保谷氏（フジテレビ）、三谷氏（日本放送協会）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課
 塩崎課長、木村技術企画官、梶原補佐、植田係長、伊地知官

【配布資料一覧】

資料 放-37-1	放送業務委員会（第 36 回）議事概要（案）
資料 放-37-2	WP6A 会合報告書
資料 放-37-3	WP6B 会合報告書
資料 放-37-4	WP6C 会合報告書
資料 放-37-5	SG6 会合報告書
資料 放-37-6	<u>今後の検討の方向性</u>
資料 放-37-7	TG6/1 に向けた検討について（案）
資料 放-37-8	今後の検討スケジュール（案）
資料 放-37-9	放送業務委員会名簿
（参考資料）	
資料 放-37-10	ITU 部会における委員会の設置及び運営について
（参考資料 2）	（平成 31 年 1 月 31 日情報通信審議会情報通信技術分科 会 ITU 部会決定第 5 号）

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

2. 前回議事概要の確認

都竹主査より、資料 放-37-1「放送業務委員会（第36回）議事概要（案）」に基づき、第36回放送業務委員会の議事概要案が確認された。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

3. ITU-R SG6 関連会合の結果について

3.1. WP6A 会合の結果について

薮氏より、資料 放-37-2「WP6A 会合報告書」及び資料 放-37-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

【6A/42 An. 10 モンテカルロシミュレーションを用いた地上デジタルテレビジョン放送の共用計算】

大谷専門委員： モンテカルロシミュレーションにおける干渉確率の基準値はいくつか。

薮 氏： 現在、固定干渉源の場合は2%となっているが、この値はスクエアブラケットで囲われており、今後の検討で変更となる可能性がある。

西田専門委員： 放送を保護する観点で、今後妥当な値を検討する必要がある。

都竹主査： 2%は非常に大きな値だと感じている。慎重な検討が求められる。

3.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び保谷氏より、資料 放-37-3「WP6B 会合報告書」及び資料 放-37-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

【6B/33 An. 14 番組制作と交換のためのデジタル音声インタフェースによる非PCM音声信号とデータの伝送方法】

西田専門委員： 音声インタフェース上でメタデータを送る方式の勧告について、SMPTE 等外部規格の参照方法が議論となった。ITU-R 勧告としてどのように付加価値を提供できるかといった課題に対し、5月のRAG会合に問題提起するための日本寄書案が、周波数管理・作業計画委員会において審議されている。

都竹主査： RAG会合はいつあるのか。

西田専門委員： 当初は4月だったが、5月の下旬に延期した。ウェブ会議での開催となる可能性もある。

3.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び甲斐氏より、資料 放-37-4「WP6C 会合報告書」及び資料 放-37-6「今後の検討の方向性」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。

3.4. SG6 会合の結果について

熊丸氏より、資料 放-37-5「SG6 会合報告書」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

西田専門委員：4K、8Kに関連する標準化もある程度進んできたため、次の放送はどういうものかという観点での検討が求められつつあり、今後日本からもどのような寄与ができるかが課題である。

TG6/1 の対象は第1地域ではあるが、UHF 帯の使い方を議論していくに当たって、今後第2地域、第3地域にも影響する可能性があり、注視する必要がある。

4. その他

4.1. T6/1 に向けた検討について

事務局より、資料 放-37-7「TG6/1 に向けた検討について（案）」に基づき、TG6/1 に向けた検討について説明が行われた。質疑の概要は次のとおり。

西田専門委員：TG6/1については、5月に予定されていたSG5の後に2日間の日程が組まれていたが、SG5の延期に伴い、10月のSG6の後に5日間の日程が組まれている。

都竹主査：10/19～10/23の5日間だという理解で良いか。

西田専門委員：そのとおり。

4.2. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-37-8「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上